

2022年度事業報告

2022年1月1日から、2022年12月31日まで

—VISION2032—

「江戸城全体整備構想の策定並びに江戸東京歴史文化資源等を活かした観光まちづくり」

世界的な環境変化や破壊、格差問題等に加えて、コロナ禍における厳しい社会経済環境の中、近年、東京は益々、都市の再開発が進み自然環境や歴史性がより一層、薄れつつある。

一方、国連は、2018年3月を契機に、短期的な経済的利益を得る為の生態系や文化にマイナスの影響を及ぼす環境利用を抑制し、地域固有の生態系や文化の保全を通じて、長期的な経済利益に繋げてくよう提唱する等「持続可能な観光国際年」を定めている。2019年12月、国連世界観光機関（UNWTO）と国連教育科学文化機関（UNESCO）の主催で「観光と文化 京都宣言」を採択し京都モデルの推進を明記しました。これらは、将来世代への投資として持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて、観光と文化の力で促進させて、貢献しようとしたものである。

このように、内外をとりまく環境変化から、「江戸城全体整備構想の策定並びに江戸東京の歴史文化資源を活かした観光まちづくり」は、より視野を拡げて展望し、事業と運動の共創による一体的発展に向けた構築が必要であるとの認識を改めて深めた一年であった。

しかしながら、近年、コロナ禍の要因もさることながら事業や組織活動の不十分さは否めず、厳しい環境下でも組織内外の多くの方々の支援・協力による漸進的な活動が推進された一年であったといえる。

1. 2022年5月 江戸東京歴史文化回廊 調査研究報告書の完成等

2018年に歴史文化資源基本調査を開始、2020年、2021年の「江戸東京歴史文化ルネッサンス調査研究委員会」活動を踏まえて、最終的には2022年5月に完成した。

行政ではできない江戸東京の歴史文化資源・特に歴史建造物を俯瞰し、今後の運動の視座を示した調査研究活動は、現在よりもより次世代、近未来にとっても欠くことのできない基本的な視点や運動の手掛かりを得ることが出来た。これは、調査活動の開始から4年にわたる地道で持続的な活動の成果である。行政や関係機関、関係者への提言活動においても相応の評価を得ることができた。

それらの概要は適時、会報誌やホームページに公開した。

2. 提言 VISION 2032

世界が憧れる都市東京を目指し、我が国の文化・芸術の振興に並びに歴史文化資源を活かした持続可能な観光まちづくりの形成・発展に寄与することを目的として、普及・啓発・提言活動を行うものである。「江戸城全体整備構想の策定並びに歴史文化資源を活かした観光まちづくり」に関係する其々の自治体、行政及び関係機関の役割使命を模索する等、2022年度は準備期間として位置付けを行った。

3. 普及・啓発・提言活動

普及・啓発・提言活動の全体像は、会員、市民と有識者との対話を軸として、行政や関係機関との合意形成を大切にしながらVISIONの実現を目指そうとするものである。これらの取組課題について、会報誌やホームページに掲載し、広く社会一般に公開した。（会報誌14号及び15号特別企画参照）

1) 第一次提言活動

江戸東京の歴史文化資源を活かした観光まちづくりの**中核的課題である文化財保存活用計画**を速やかに策定するよう文化庁、東京都並びに自治体8区に提言を行うと共にそれらの現状把握も行った。東京都策定予定の大綱を視野に入れた計画を主体的に検討している区もある一方で、東京都の動きや他の区の動きを見てからにしたいとの意見も多々ある。コロナ禍もあり全体的に文化財担当がない等の要員不足の状況も明らかになった。外濠の取り組みや文化財保存活用計画の策定は始まったが、一方で、東京の再開発による自然環境保護や歴史文化財の保存活用上の課題も改めて浮き彫りになった。以上を踏まえて、提言活動はさらなる深化をはかり、行政や民間、関係者の多方面に継続して進める。

2) VISION 2032に寄せる 会員、市民と有識者の意見「100人に聴く」

VISION 2032に寄せて 2022年12月23日発行・会報誌第15号特別企画参照

3) 有識者の講演、セミナー等から

①・5月：VISION 2032に寄せて（日本イコモス国内委員会理事・事務局長インタビュー）

歴史遺産の保存活用に力点を置いた法的なしくみやそれらのソフトを動かす取組みが喫緊の課題

②・5月：持続的な観光まちづくりに向けて一人ひとりが参加を（東京大学准教授 中島 直人 寄稿）

歴史文化資源と共にあることで豊かで幸せな生活を創造することがまちづくりの肝であろう。

③・5月：21世紀の東京で「発見」する文化的価値（東京大学准教授 海野 聡 寄稿）

東京は文化的価値発見の可能性に満ち溢れている。埋もれている歴史文化の痕跡やかけらが多くある。

④・9月：列島ビジョン2030 東京の文化資源を日本各地へ世界へ

（東京文化資源会議 会長、東京大学教授 吉見俊哉 講演） 日本の豊かさのためには、経済成長から文化的成熟を基軸とする未来への転換により文化的成熟価値を享受していく社会の実現を目指そう。

⑤・9月：持続可能な観光まちづくりに向けて（都立大学教授 清水哲夫 寄稿）

世界が注目する東京の文化財を改めて見直し、文化観光により東京都に貢献しよう。

⑥・9月：江戸東京歴史文化回廊 江戸城下町の歩き方（都市史研究家 後藤宏樹 寄稿）

行政ではできない上質な街歩きにより、旧江戸城の歴史性の再生と城下町の痕跡を伝えてゆこう。

⑦・9月：観光と人材育成（国際文化アカデミー 常務理事 坂本友理 寄稿）

江戸東京の観光資源が知られていない傾向にあり、江戸の語り部、伝道師の育成等は急務

⑧・10月：江戸東京の文化―「神田明神 祭や年中行事」（神田神社宮司 清水 祥彦 講演）

江戸の総鎮守（神田明神）と江戸城の深いつながり神田祭りとは江戸体験型観光の可能性を説く。

以上